

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520233

研究課題名 (和文) ドイツ文学における史実と想像力に関する研究

研究課題名 (英文) study of the history and imagination of German literature

研究代表者

島谷 謙 (SHIMATANI KEN)

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授

研究者番号：00243519

研究代表者の専門分野：ドイツ文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：歴史文学、史実、想像力、シラー、C.F. マイヤー、S.ツヴァイク、

## 1. 研究計画の概要

本研究は、近現代の複数の作家の史実 (歴史) を踏まえた作品、歴史文学を対象とする。

史実を見極めながら、時代 (史実) に対峙し発動される想像力と方法論の在りようを捉え、文学という器の可能性を探る。

## 2. 研究の進捗状況

対象作家はドイツ古典主義を代表するF. シラーから20世紀のS. ツヴァイクに及ぶ。

史実を見極め、史実に対峙し発動される想像力と方法論の在りようを捉え、文学という器の可能性を探る。

一世紀半にわたる歴史的变化を見据えて作品を考察することは、一時代に限定した作品の考察とは異なる認識をもたらす。近代から現代までを射程に置く。

本研究の特色は歴史研究と対照させながら、史実を扱った文学における想像力の機能の在り方、史実との関わりを作品の中で具体的に究明する点にある。

一昨年には本研究成果の一部として、『歴史と想像力』という研究書を世界思想社から刊行した。『大学新入生に薦める101冊の本』新版 (岩波) では、司馬遼太郎や藤沢周平の著書を解説し、ドイツと日本の歴史文学の相違に関して考察した。本年度は清水考純『ルネサンスの文学』や西村『世紀末ウィーン文化探求』などを取り上げ、書評しました。そこでもまた、歴史と文学の関係に関する考察を深めた。

## 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

『歴史と想像力』 (世界思想社、単著) 及び『大学新入生に薦める101冊の本』新版 (岩波、共著) を刊行。

## 4. 今後の研究の推進方策

日本ビューヒナー学会の会誌に、「ドイツ表現主義とビューヒナー」という論考を発表予定。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

『原民喜と西欧文学』、島谷謙、科研費報告書「世界肯定の論理と技法」(代表、古東哲明)、2008年、P. 78～92、査読なし、巻なし

[学会発表] (計0件)

[図書] (計2件)

① 『歴史と想像力』 (世界思想社)、島谷謙、2008年、270頁

② 『大学新入生に薦める101冊の本』新版 (岩波、共著)、2009年、島谷謙、P. 26, 27, 42, 43, 88, 89, 141, 142, 178, 179、広島大学101冊の本委員会編、査読あり